

みんなでつくる 森ものがたい

2022年8月21日発行 第143号

油山自然観察の森
森を育てる会



〒811-1355
福岡市南区大字桧原855-4
油山市民の森管理事務所内
TEL: 092-871-6969
FAX: 092-801-1463
<http://www.morikai.org/>
mail: aburayama@morikai.org



<7/24 カブトムシの森 昆虫調査>

も	表紙	1
く	活動ノート(6/26, 7/3, 7/24, 8/7)	2
じ	特集「昆虫調査」	3~4
	特集「幼木・希少植物の育成WS」	5~6
	油山のお仕事日記「ツリークライミング」	7
	「私が森にいる理由」	7
	うん・えー会報告(6/26)	8
	活動予定	8

「森を育てる会」は福岡市油山自然観察の森の保全活動を通じ、広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流を行う事を目的とする市民グループです。活動は(公財)福岡市緑のまちづくり協会の助成を受けて行っています。**会では、随時、会員を募集しています。**興味がある方はメールまたは電話でご連絡下さい。

活動ノート



6月26日(日)
備品管理
12:30~15:00



◆参加者：9名
◆内容：参加者9名で草刈り道具の整備など備品管理活動を行いました。カマの研ぎ出し、ハサミの研ぎ出し、機械道具の点検・整備、備品の員数チェックなどを行いました。カマ、ハサミはレクチャールームにコンパネ、ブルーシートを敷き、砥石を使って研ぎました。機械道具は刈払機はギアケースのグリス交換を行い、チェーンソーはガイドバーを新品に交換しました。備品の員数チェックを行ったので管理台帳に反映する予定です。蒸し暑い中の作業でしたが、来週の草刈りで早速その効果を発揮してくれると思います。

【ふりかえりより】

・ハサミを研ぎました。普段生活で研がないのでとてもいい経験となりました。

7月3日(日)
カブトムシの森作業(草刈り)
9:30~15:30



◆参加者：6名

◆内容：カブ森へ移動し、作業に入る前にB地区、A地区へ行き、草の繁茂状況、作業概要、残したい植物を確認しました。続いて刈り払い機担当班2名がC地区、手道具担当班4名がA地区で作業開始。刈り払い機班は残したい植物に赤テープのマーキングをし、草刈り。30分交代で刈り払い機を動かしC地区平地は草刈りを完了。一方、手道具班はA地区の遊歩道沿いを残したい植物に配慮しながら草刈り、午後からは、A地区湿地で1メートルをこえるような雑草の草刈を行いました。日陰もなく湿度の高い中、かなりの重労働でしたが、なんとか湿地の草刈りを終えました。

【ふりかえりより】

・来場者が安全に通っていただくことで疲れもとれると思います。

7月24日(日)
昆虫調査
9:30~14:10



◆参加者：19名

◆内容：カブ森へ向けてルート観察スタート。途中は昆虫を探しながら道中で40種類ほどを普段よりたくさんの昆虫を同定しつつゆっくりと進みました。昼食後はトラップを回収。3つのトラップが荒らされ残る3つもカブトムシは入っていませんでした。ここ数年はトラップをかなり高いところに設置しても荒らされていることから何か対策が必要に

なっています。全体的には初同定の昆虫もいくつか見つかり、参加者の皆様からも楽しめたとの声を頂け、けが人もなく終了できたので有意義な活動ができたと思います。今回同定できた昆虫種は、54種(ルート観察45種、トラップ9種)でした。

【ふりかえりより】

・親の知識では満足できなかった子供たちに色々教えていただき感謝です。

8月7日(日)
カブトムシの森幼木・希少植物の育成ワークショップ
9:30~15:30



◆参加者：9名

◆内容：カブ森への移動後、C地区の杉林から入り、かぶ森入口でカブトムシの森の保全作業の現在に至る経緯や幼木・希少植物の育成計画についての話をしました。その後、全員でC地区からB地区の順に資料にある植物を確認し、植物の特徴や生き物との関係のレクチャーをし、残すものにピンクテープの目印をつけて回りました。午後は残りのA地区を確認し小休憩。樹木、草本類の名札の付け方を確認して、3班に分かれ、ラベル設置をしました。3班で合計116枚設置できました。

【ふりかえりより】

・個々の草木に目を向けて活動していく良い契機になりました。

特集＜昆虫調査＞

（世話役 新牛込）

カブトムシの森に生息している昆虫たちを調査することで森の整備状況のひとつの指標とすることを目的として毎年実施してきました。

昨年度までコロナなどで年1回、7月の実施にとどまっていたが、今年度は6月と7月の2回実施することができました。

■当日の活動内容

6月12日は初めて6月に実施した昆虫調査となりました。

コロナ関連での注意事項など集合時のオリエンテーション後に、いつもの道筋をルート観察しながら進んでいきましたが、6月という事もあり、これまで同定されていなかった昆虫が後日同定されたものも含めて8種類と名前不明の昆虫が2種類見つかりました。

ホイホイトラップとピットフォールトラップは残念ながら6月という事もあったようで昆虫は9種のみとなったため、次年度以降はトラップを仕掛けずにルート観察の時間を増やす方針へ変更しようと思います。

最終的に同定できた昆虫は36種となり、やや少な目ではありましたが、新しい昆虫が多く昆虫リストに追加されました。

7月24日は例年通り夏休みの最初の週末に実施しました。

コロナが増えてきていたため開催がやや危ぶまれましたが、何とか制限などなく開催できました。

例によってコロナ関連の注意事項のあと、体験参加者やJR九州の方などが参加されたため全員で自己紹介行ってからルート観察をスタートしました。

今回もゆっくりとルート観察を実施したことでこの方法では過去最多の45種を同定できました。

また、未同定の昆虫も4種見つかり、参加人数が19名と多かったことも貢献したようです。

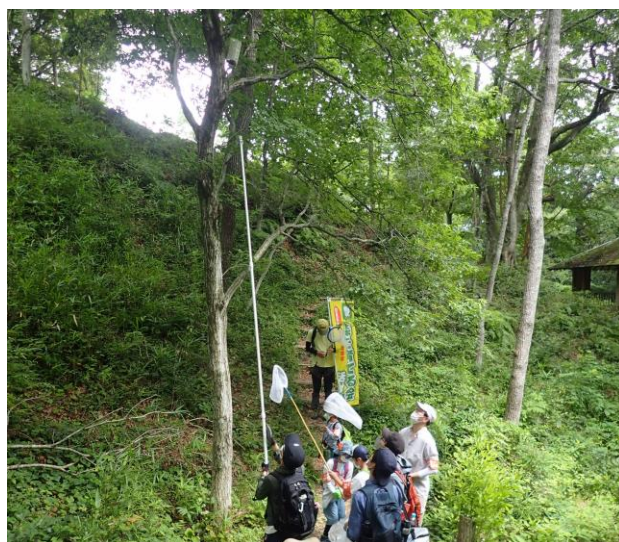
トラップは、残念ながらホイホイトラップが6個中3個荒らされていたこともあり、同定は9種類と少ないものになりました。

今年度は昨年度よりも若干高いところへ設置していたためか、これまでと違ってトラップを強引に引っ張られたようでトラップ自体が破損している状態でした。



（7月調査の集合写真）

来年度に向けてトラップに関しては作り直しを予定していますが、これまでのものより頑丈にするとともに下から昆虫が入っているのが見えることで注意を引いてしまう点を考慮して下から見て中が全く見えないようにする予定です。



（高所に設置したトラップを回収）

■調査結果等

カブトムシとクワガタムシについては今年度もあまり多くなく、6月は仕方ないとしても期待していた7月もカブトムシはゼロ、クワガタがころうじて1匹と少ない結果となりました。

前日夜にライトトラップで調査をされていた古藤先生も、今年はカブトムシが全く飛んでこなかったということでした。

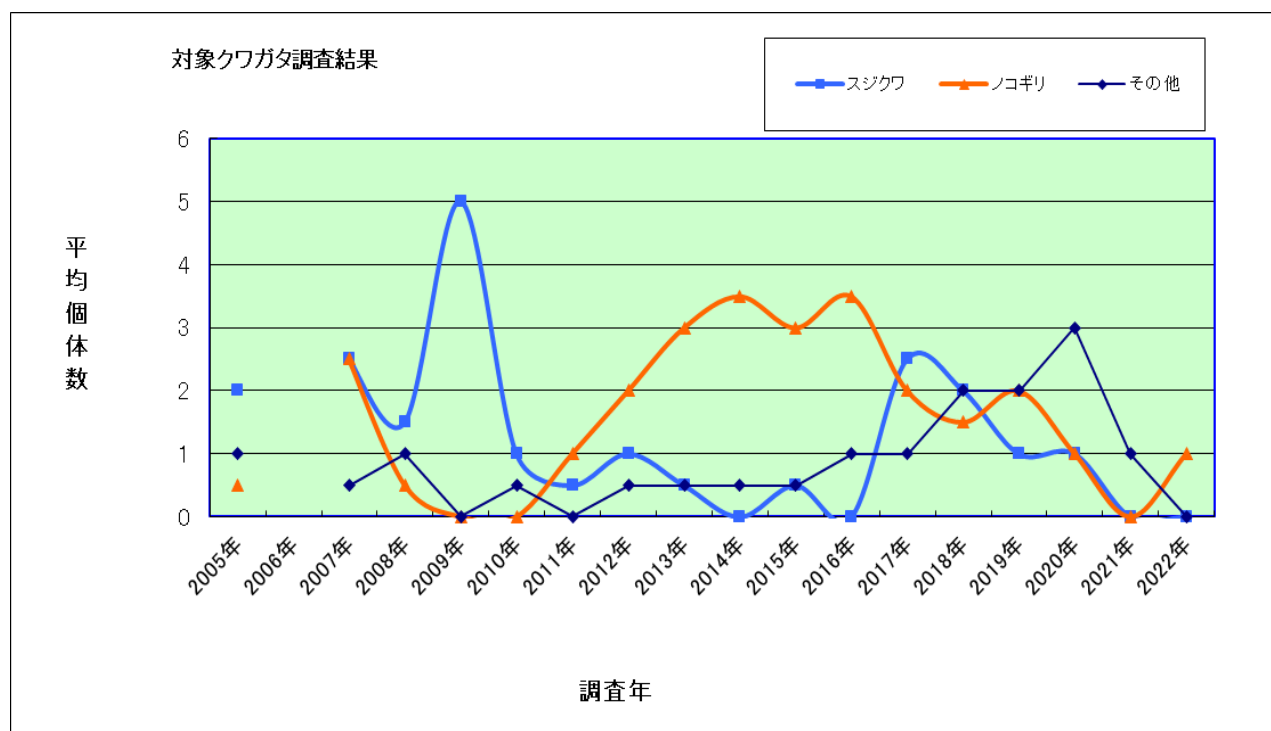
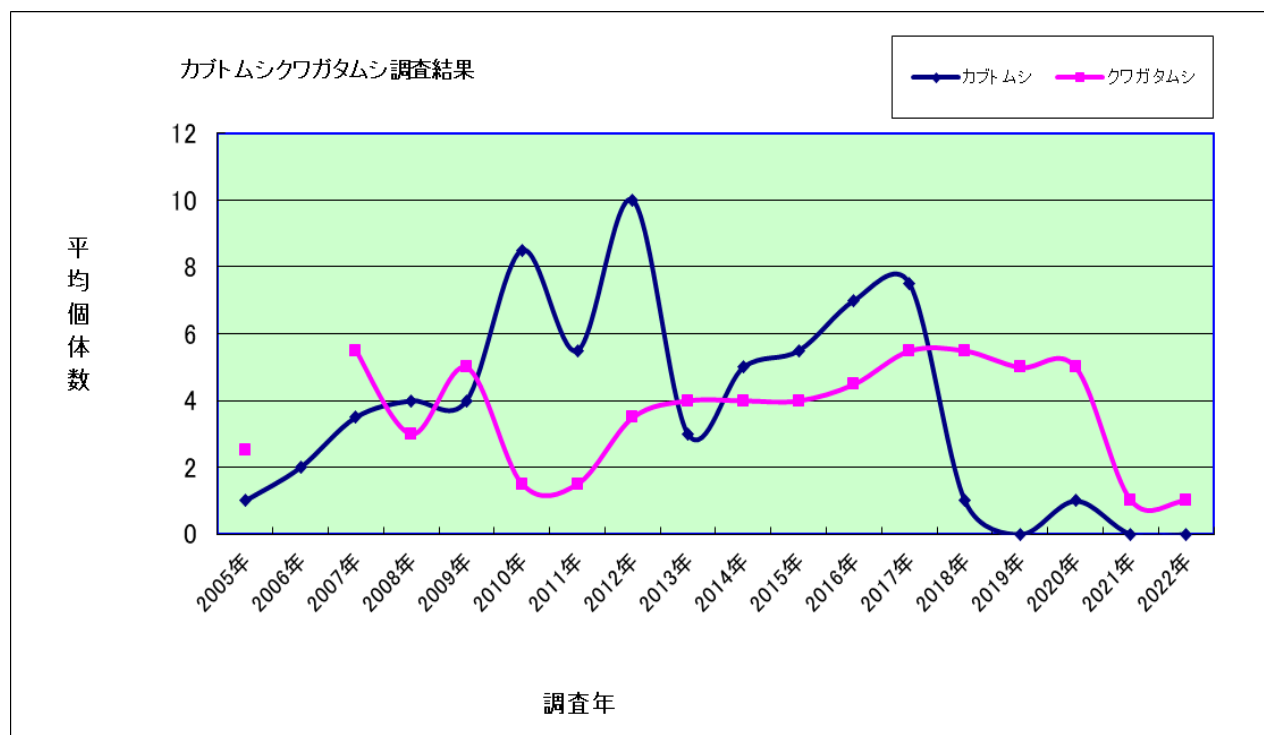
考えられることとしては、カブトムシ、クワガタムシが実際に減っている、または羽化の時期が遅くなっていることが挙げられますので、活動予定はないですが、8月にも昆虫採集をしてみようと思います。

■今後について

引き続き 6、7 月に昆虫調査を行います。来年度より 6 月はルート観察中心としてトラップは使用しない、そして 7 月は新たなトラップを使用していこうと思います。

では、参考までにこれまでのカブトムシ・クワガタムシの個体数グラフになります。

21 年は 1 回のみの開催で少なくなっています。



カブトムシの森

幼木・希少植物育成ワークショップ

(2022/8/7)

世話役 鎌田

■背景

福岡市の事業として、カブトムシの森にクヌギやコナラが植樹されたのは今から約30年前、そこから草刈りや間伐を進めてきた。一時期、当初予定されていたクヌギやコナラの純林に近づいた頃もあったが間伐を進め、明るくなってきた森では草本類、広葉樹などが自然に増えてきて、それに伴い暗い森を好む生き物は数を減らした。しかし、それにも増して多くの昆虫種が見られるようになった。
これは、明るく、多様な植物相を保全することがより豊かな生物層を育むことにつながった結果。

■目的

カブトムシの森は、伐採を進めてきた結果、日当たりがよくなり様々な樹木や草花がどんどん発生、増えてきた。これらの植物を豊かな植物相で平面的かつ、立体的なモザイク状を成すようにバランスよく管理していくために生育・発生した位置を把握し、それらの植物を保護・育成するために目印となる名札をつけ、会員で情報共有し、保全作業を進めるための軸とする。

■育成計画の概要

カブトムシの森の基本理念に則り、希少植物の保護・育成と多様な動植物が生息・観察できるような森づくりを行うために樹木、草花の保全に加え、周辺の植生からの移行や表土の移植を行い観察資源となる植物を増やし、それらの植物に集まる生きもの等のために植物相の多様化を図る。

1. 保護・育成方法

萌芽枝や実生苗を保護するために支柱設置及び名札によるマーキングを行う。

萌芽枝及び実生苗の樹木は、全体のバランスに配慮し、その成長過程で昆虫の食餌植物、住处として利用できるように多様な樹齢、樹高で維持するために順次、大きくなり過ぎた樹木の更新を行う。

実生の発生や幼木の生育状況を年に1回程度観察し、管理方針の確認・見直しを行う。

作業を行う日には、保護・育成する植物の名前や特徴等の説明を行い会員に周知する。

2. 草本類の多様化を図るための試験

①裸地ヤードを設け、埋土種子の発芽や周辺からの移行を期待し、追跡調査を行う。

②除草作業の刈草を現地から搬出するヤードを設け、埋土種子の発芽や周辺からの移行を期待して追跡調査を行う。

3. 保護・育成する個体、群落に名札を設置する。

ワークショップで行った作業

■目的

1. バランスのとれた里山（植物の大小、高低、明暗、乾湿など）を創るための基軸を作る
2. 会員に保護・育成する植物の場所や種を覚えてもらう

■作業方法

1. 遊歩道を回りながら、各ルート、地区で事前に調べた保護育成種を皆で確認し、必要であれば追加する。(名札を付ける種にピンクリボンを結び、地図に記録)
2. 班に分かれ、ピンクリボンを結んだ植物に名札を設置する。(縄張り及び杭打ちは後日設置)

■名札の設置方法

- ・希少種は株毎に設置する。
- ・分布数の多い種は遊歩道に近い株又は目立つ場所の数株に設置する。
- ・樹木には名札を麻紐で枝に吊るす。
- ・草本、ツル植物は、園芸支柱に麻紐で名札を吊るす。
- ・名前は油性マジックで記名する。
- ・面的に広がる種類は杭柵を設置する。
(柵は地下倉庫の材で製作 h=0.5m 程度)

■作業風景



■WS の成果

良かったこと

- ・会員9名で樹木約40種、草本約40種の位置を共有し、116の植物に名札を付けた。
- ・参加者に興味を持って参加してもらえた。
- ・今後の保護・育成作業の基軸ができた。

改善・改良点

今回、時期的に確認できなかった植物があったので季節を変えて行う。

設置した名札



■今後の課題と展開

- ・今回参加していない会員への周知が必要である。
- ・活動日毎または定期的な周知が必要である。
- ・保護・育成植物は現地の変化に合わせて随時見直し、名札を管理する。
- ・森の変化に合わせた保全作業を行う。
- ・現在より豊かな植物相を形成するための作業として、裸地を作り、埋土種子や近隣からの飛来による発生及びカブトムシの森以外の市民の森内からの表土移植による発生の可能性を調べるための試験を行う。

油山のお仕事日記

「ツリークライミング」

油山市民の森・自然観察指導員 小川真樹

木登りにはまっております。ロープを使って木に登る技術は、日本にもいくつか普及団体がありますが、私の場合は、ジョンギャスライトさんが創設したツリークライミングジャパンの指導を仰ぎながら精進している最中です。



もともと木が好きで、木の名前を調べたり観察したりを楽しんでいます。ツリークライミングにおいては、木と裸で相撲を取ってるような感覚です。スポーツ的に汗かいて気持ちいいというニュアンスでなくて、相撲しながら「おまえやるな」「おまえもな」的な愛を自分の中に育ててる感じです。

ツリークライミングは木との挨拶から始まります。文字通り挨拶です。よろしくね、登らしてもらおうよ、と声をかけます。…ちょっと脱線しますが、私は普段植物を擬人化しません。枝を折ったら木がかわいそうだよとか、雨ふったから木が喜んでるねとか、自然ガイドの時にあまり言いません。植物に対しては、ヒトとは異なる存在として敬意を払うことを大切にしています。そんな自分が、木によろしくと挨拶し、相撲とって、おまえもな、というわけです。恥ずかしさもあります。そんなふうに、ツリークライミングをするときはポチッと精神のスイッチが切り替わります。この切り替えが、心に新鮮で心地よいですね。

ツリークライミングジャパンも、木登りの安全性や技術は当然のこととして、精神性をとても大切にしています。私も、ツリークライミングが単なるスポーツテクニックではなく、人の日常の癒しや気づき、学びに貢献するものとして普及していくよう取り組んでいます。なんやかんや言っても、木の上で過ごす時間は理屈抜きで素敵です。うちの娘にも登っていただき、父のかっこよさに気づいてもらおうかしら。

「私が森にいる理由」

会員にお話を聞く
新コラム。2回目は
吉田さんです。

○ 出会い

車の免許をとり、初めて行った背振で、植物の解説をしてくださる人と出会いました。

この方を師匠とし、観察、かかわる方々との交流が大切なものになり、現在に至ります。

自然観察センターを訪れた折、レンジャーの紹介で代表と知り合い、入会。木を伐るのにびっくりしましたが、人の手を入れることで、生き物の多い森になると説明を受け、活動の中で実感しました。

○ 好きな場所

12月納会の折、アカマツ林の尾根筋にて、皆でお弁当を食べました。遠くに油山の稜線を望む明るい風景を見ながら、楽しいひととき。アカマツ林世話役さんが吹くオカリナも、すてきでした。

カブトムシの森を、時折一人でまわります。雲が垂れ込める日は、どこかに妖精がいるような、ロマンチックで不思議な魅力を感じます。

○ 森会の会員さんと

シニアの方は、燃えている、気持ちが熱い。元気をもらっています。お母さんたちが、子供をみながら、率先して作業をしているのは、輝いて見えます。

鎌を持ったこともなかったのに、皆さんから教えてもらいました。植生調査は、いつも声がかかり、楽しく参加しています。
(聞き手 柴戸)



7月のリース

アカマツ林も夏草が
茂る季節。センターが、
お世話している植物調
査の折、歩きやすいよ
う、少し道沿いの草を
刈りました。それでつ
くったリース。ナガバ
モミジイチゴ、カエデ
ドコロ、ツクシハギの
青葉です。(し)



うん・えー会報告

2022年6月26日(日) 9:30~12:00

出席者：10名

1. 2022年度 会員加入状況報告

(2022年6月10日時点)

総会員数：33世帯49名

(一般会員25名、家族会員24名)

2. 2022年度 役員・世話役確認

役員8名、世話役11名、副世話役7名

3. 2021年度 決算及び監査報告

2021年度決算・監査報告を全会一致で承認

4. 2022年度 活動予算案審議

2022年度決を全会一致で承認

5. 4~6月 活動報告 (詳細は会報142号参照)

- ・4/3(日) アカマツ林作業 材処理・ヤード整備 他
- ・4/17(日) カブトムシの森作業 クヌギ除伐 他
- ・5/22(日) 安全講習 参加者19名
道具の使い方、ロープワーク、伐採方法講習
- ・5/29(日) カブトムシの森作業
- ・6/12(日) カブトムシの森 昆虫調査
- ・6/26(日) うん・えー会、備品管理

6. 7~9月 活動予定

- ・7/3(日) カブトムシの森作業→予備日7/10(日)
- ・7/24(日) カブトムシの森 昆虫調査
→3日前にトラップ設置予定
- ・8/7(日) カブトムシの森 幼木・希少植物育成WS
- ・8/21(日) うん・えー会、備品管理
- ・9/4(日) 木工教室
- ・9/25(日) 草木染め

7. その他

- ① 定点撮影について
- ② 森会三つ折りパンフレットの更新
- ③ 5/29 福岡市森林政策課油山リニューアル事業説明会報告
- ④ 会員へのメールでの連絡方法(特に添付ファイル)
- ⑤ 森ものがたりの会員への送付方法、印刷部数
- ⑥ マルウェア対策について

8. 発送作業 ①会報142号



活動予定 (2022年9月)

- ★〈作業〉〈調査〉〈観察〉は小雨決行
〈うん・えー会〉〈勉強会〉は雨天決行
活動時間：9:30 集合 ~ 15:30 解散
- ★荒天の場合はセンターまでお問い合わせください。
- ★活動内容は、当日の参加人数、天候等によって変更になる場合があります。
- ★〈作業〉の標記のある日の服装は「森会スタイル」
(長袖、長ズボンで安全に作業ができる動きやすい服装)でご参加ください。必要な持ち物は
いぼ付軍手・帽子・タオル・弁当・飲物・おやつ・
筆記用具の他、必要に応じて着替え・雨具をご持参
ください。

9月4日(日) 木工教室

保全作業で伐採した材などを使って工作を行う

9月25日(日) 草木染め

油山で取れる植物等で草木染を行う。

10月2日(日) アカマツ林作業

草・萌芽枝刈り、広葉樹除伐、作業道整備を行います。

10月16日(日) カブトムシの森作業と植生調査

- ・カブトムシの森作業 草刈りと除伐を行います。
- ・植生調査 カブトムシの森A地区のコドラート内の林床植生調査を行います。

11月6日(日) カブトムシの森作業(楢木づくり)

(予備日11月13日(日))

伐採したクヌギを玉切りにします。

11月20日(日) アカマツ林作業

草・萌芽枝刈り、広葉樹除伐・材処理を行います。

12月4日(日) うん・えー会とアカマツ林作業

- ・うん・えー会
9月~11月活動報告、12月~3月活動予定、
その他(予算消化状況報告、世話役活動の振り返り提出依頼)

・アカマツ林作業

草・萌芽枝刈り、ヤード整備を行います。

12月11日(日) 納会(柏陵高校研修準備)

- ・納会 フィールドを回りながら一年の活動を振り返ります。
- ・アカマツ林作業 外部(柏陵高校)研修受入準備をします。

油山自然観察の森 森を育てる会
会報『森ものがたり』 季刊
編集担当：川上、平野、鎌田、静間、松雪
